

# 島の誇り 中村一雄さん人間国宝

## 県内13人目「人間国宝」

琉球古典音楽・野村流伝統音楽協会会長の中村一雄さん(字大田出身)が令和元年10月、国指定重要無形文化財「琉球古典音楽」(各個認定)保持者、人間国宝に認定されました。県内の人間国宝は13人目で、芸能分野では8人目となります。

父昌福さんの影響で始めた三線は、24歳の頃野村流三線演奏家の野村義雄先生に弟子入りし本格的に琉球古典音楽(歌三線)を始め、出勤前、退社後、休日と日々練習に励んだそうです。28歳本島への転勤を機に知念秀雄先生へ弟子入りし、多くの舞台を踏み、46歳で野村流師範免許を取得し、平成28年に野村流伝統音楽協会の会長に就任しました。

中村一雄さんは、県指定無形文化財では平成13年「沖繩伝統舞踊」保持者、平成20年「沖繩伝統音楽野村流」保持者、国指定重要無形文化財(総合認定)では平成13年「組踊」、平成29年「琉球舞踊」と多くの功績を持ち、野村流伝統音楽協会の後継者育成や、国内・国外での公演、中村一雄さんの歌三線の原点である久米島の若者達に「謡心(うたぐくる)」の大切さを伝えていくために始めた「久米島古典民謡大会」など、これまでの活躍が高く評価され人間国宝として認定されました。

## 三線に完成はない 死すまで学ぶべし

令和元年12月20日に久米島町で開催した人間国宝認定祝賀会で中村一雄さんは「重要無形文化財各個認定を受けて責任の重さに今、気持ち新たに頑張りねばという思いである。芸能には死すまで学ぶべしという格言がある。三線には完成はない。生きている限り一生懸命頑張っていきたい」と話しており、今後も芸能分野に貢献していくと誓いました。

## タイムスホールでの公演

12月7、8日、那覇市のタイムスビルで開催した「久米島町観光・物産と芸能フェア」の芸能公演では、中村一雄さんが特別出演してくださり、「木綿花節」や中村一雄さんが作詞作曲した「首里城節」、波平憲広先生が作詞作曲し、中村一雄さんへ持ち歌にしてもいいよと託した「ふるさと」を披露し、会場は感動と暖かい拍手に包まれました。



8月22日人間国宝認定報告で町長表敬くださいました



久米島西中学校生徒と「木綿花節」を披露する中村さん



玉城千枝道場による余興「寿の舞」

## 首里城節

作詞作曲 中村一雄

一 あだ果報のつきやす 夢やちやうも見だぬ  
生まれ島向て 御恩おくら

二 響む<sup>とよ</sup>首里城 御万人の誇り  
ひやみかち起こせ 能羽のちから

三 初春になれば うれしことさせて  
弾きゆる三線の 音のしゅらと

### 歌意

- 一 思いがけない幸運が我が身に付くとは、夢にさえみたことがない、遠く離れた生まれ島、私を育ててくれた久米島に感謝の念を送りたい
- 二 名高き首里城は、沖縄県民の誇りだ、ひやみかち再建しよう、芸能の力で
- 三 首里城再建の暁には歌や踊りで祝おう、その時の三線の響きは実に美しい

首里城節は20年くらい前に首里城をイメージして作っていましたが、この詩は人間国宝認定と首里城再建に触れて作詞したものです。  
一番は祝賀講演で「慶祝の響き」太鼓演奏のため火災前に作詞したものです。二番は琉球新報の「ひやみかせ首里城再建」にかけて作詞したもので、三番は琉歌集より。

